



## 歴史研究所と地域連携

### —設立 15 周年を迎えて—

飯田市歴史研究所は2018（平成30）年12月をもって設立15周年を迎えました。自治体がつくった、全国的にもユニークな研究機関として、研究・調査活動、教育・普及活動、市誌編さん・出版活動を軸に、これまで幅広く事業を進めてきました。

その中で、とくに重視してきたことに地域との連携があります。なかでも、座光寺地区（飯田市座光寺）との関係は、2004（平成16）年に座光寺史学会と協働で史料調査に取り組みはじめて以来、一貫して続けてきました。現在でも月に2回、座光寺の麻績史料館で地元の「歴史に学び地域をたずねる会」のみなさまとともに史料調査を行っています。また、関係はこれにとどまりません。「歴史に学び地域をたずねる会」は、2010（平成22）年に、史学会を含む歴史にかかわる地域の諸団体をまとめ、連携を密にするために自治会の特別委員会として発足した組織ですが、これにより、座光寺における歴史文化遺産を保存・継承する運動は新たな段階に入ることになりました。それにあわせて、歴史研究所の古代史を専門とする研究員が、座光寺の遺跡や古墳などを紹介するマップの制作を監修したり、近現代史専門の研究員が古老から聞き取りを行う活動にアドバイスをしたりというように、多様な関係を築いてきました。

こうした地域連携において大事なものは、地域と歴史研究所双方が、互いに相手から何かを学べる場になるということではないでしょうか。私個人についていえば、現在、近世の座光寺を素材に村社会の構造分析に取り組んでいますが、座光寺を選んだ理由は、地域や「歴史に学び地域をたずねる会」との触れあいを通して、史料にかかわる情報などが得られるのみならず、現在の座光寺で生活を営む人びとにとって、地域の歴史がどのような意味をもつのかを知ることができ、それが私の視野を広げてくれるのではないかと考えたためです。実際、座光寺との関係は、歴史の視方を鍛えあげてくれる、私にとって欠かせないものになっています。座光寺の人びとにとってはどうか、その検証が必要かもしれませんが、

このような双方向的な関係が重要だと思います。そして、そうした関係を他の地域へも広げていくことが、これからの歴史研究所の課題でもあるとも考えています。

（研究員 羽田真也）



史料調査の様子



麻績史料館に保存されている史料



麻績史料館に展示されている写真パネル



# 地図史料のデジタルアーカイブ構築に向けて



地域史研究において、近世絵図や近代地図などの図史料は、過去の風景や空間を知るうえで非常に貴重なものといえます。歴史研究所でも、これまでの出版物で多くの重要な絵地図史料の紹介に取り組んできました。しかしながら、こうした図像史料は通常の文書史料に比べて大判のものが多く、保管方法や閲覧の容易さといった点で困難があり、必ずしも研究利用が進んでいないのが現状と思われます。

ところで、欧州のさまざまな史料館をのぞいてみると、こうした図像史料が積極的にデジタルアーカイブとして公開されていることが多いことに気付かされます。例えばイタリア各都市の史料館では、19世紀のさまざまな時期につくられた地籍図が、大抵の場合すべてデジタル化されており、史料館の専用端末を通して自由に閲覧できる環境が整備されています。また、オランダのフリースラント州では全州の1832年の地籍図が完全にデジタル化され、まるでグーグルマップのようにインターネットで自由に閲覧することができます(下記URLを参照)。

図像史料はデジタル化によって市民への公開が容易となる一方、データ化された画像が無断で利用されかねない心配もあります。日本国内ではデジタルアーカイブ構築の試みは慎重といわざるを得ず、必ずしも進んでいるとはいえません。歴史研究所では今後新たな取り組みとして、絵地図史料のデジタル化と市民への公開手段を積極的に検討していきたいと考えております。

(研究員 福村任生)

参考URL (オランダ語) <http://www.hisgis.nl/hisgis/gewesten/fryslan>

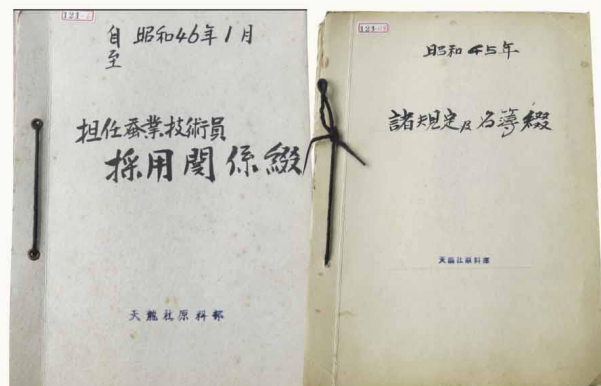


麻績史料館での撮影の様子

## 「お蚕様の先生」の近現代—天龍社資料を通して

養蚕は、近現代飯田下伊那における主要な産業の一つでした。その養蚕農家を支えたのが、「蚕業技術員」です。蚕業技術員とは、養蚕農家を巡回し、蚕の飼育の技術指導を行った人々です。農家からは「お蚕様の先生」と呼ばれていました。

飯田下伊那でも蚕業技術員は大きな役割を担いました。この地域で最大の組合製糸である天龍社は、蚕業技術員を各村の農協に駐在させ、自らに繭を提供する養蚕農家への指導を行わせました。特に、「稚蚕共同飼育」(生育が難しい蚕の1齢～3齢までの時期を、個別の農家ではなく設備の整った共同の飼育場で育てること)の普及に大きな貢献を果たしています。



蚕業技術員は、この地域の近現代の養蚕の歴史を理解するうえで重要な存在ですが、まだ十分な研究が進められているとは言い難い状況です。現在は、天龍社資料の中に残されている蚕業技術員関係の史料の調査を進めています。蚕業技術員の履歴や活動記録、会議資料など膨大な量の史料群が残されています。少しずつ分析を進めて、飯田下伊那の養蚕業における盛衰の中で、「お蚕様の先生」が担った役割を検討していきたいと思っております。

(研究員 太田仙一)

## 箕輪町長岡で区有文書を調査しています

吉田 伸之(歴史研究所/所長)

2017年1月から、箕輪町長岡区有文書の「再調査」を始めています。「再調査」というのは、1947年12月に、当時長岡の長松寺が預かっていた区有文書について、恩師である山口啓二先生とその友人一永原慶二・稲垣泰彦の両氏。いずれも後に著名な中世史家となる一によって「最初の」調査が行われているためです。この「最初の」には、長岡区有文書にとって、ということや、また20代の若い山口先生にとっての初めての史料調査、という意味だけにとどまりません。地域史研究をめざした、初めての本格的な村落史料調査だったという点が重要です。

5年ほど前から、荒野泰典氏(立大名誉教授)らとともに、山口啓二・静子両先生が遺された膨大な研究資料(「啓静文庫」)の調査を継続してきました。その中で、長岡や相之島(現須坂市)における古文書調査、さらに農村史料調査連絡会の創立時の貴重な記録を見いだすことができました。長岡での調査のこと、調査の直後、東大農学部で古島敏雄先生を訪問し、村落史料調査の重要性を熱く語ったところ、それをきっかけに農村史料調査連絡会が結成されたこと、これには加藤一郎、潮見俊隆、大内力、福武直など、その後、人文学・社会科学を代表することになる多分野の若手研究者が結集し、山口先生は幹事役を担ったこと等。戦後の農地改革のうねりの中、このあと各地で村落調査が精力的に進められ、共同研究の成果が出されます。そして国立史料館の創立や地方史研究協議会の設立へと結実しました。つまり、山口先生らの長岡区有文書調査は、現在にいたる地域史料の調査研究にとって、本来の意味での先駆けだったこととなります。

若い山口先生たちが長岡村の青年たちと交流しながら、長松寺に泊まり込んで行った調査を追体験できるのは大きな喜びです。現在、区有文書は小さいながらも立派な「長岡区文書館」に大切に保管されています。これを若い友人たちとともに精査し、長岡とその周辺の地域史研究へと繋げたいと希望しています。

### ◆◆◆◆ 研究活動助成報告会を開催します ◆◆◆◆

開催日：**2月28日 木**  
 時間：**10:00~11:30**  
 会場：**歴史研究所 研修室**

歴史研究所では、個人や団体の歴史研究活動に対して助成を行なっています。今年度この助成を受けられた方の研究報告を行ないます。聴講無料でどなたでもご参加いただけます。

#### 報 告

- 「ミチューリン会機関紙に見る農業技術運動の展開と変容」 壬生 雅穂さん
- 「琴原神社にかかる史実を調査し文書化し、文化として後世に引き継ぐ」 川路琴原神社氏子総代会

**3月  
発売**

## 飯田市歴史研究所 年報16

飯田市歴史研究所 編 B5判 236頁 定価1,800円

2017年度の地域史研究集会の成果をまとめた特集「地域の歴史を描く」をはじめとして、地域史研究の成果を掲載しています。

#### 【特集】地域の歴史を描く

- 多和田雅保 対話を通じて地域を描く
- 吉田治忠 鼎中平区誌編纂にあたって
- 渡邊義昭 ふるさと学習教材を作るにあたって
- 安岡健一 「個」の歴史から地域を見る
- 樋口貴彦 記憶としての景観
- 小平和夫 伊那市通り町一丁目商店街の街並み景観



#### 【小特集】「日記・自分史・聞き取り」をめぐって

#### 【研究ノート】

- 千葉拓真 生類憐みの令と飯田藩
- 速渡賀大 飯田藩領における借屋人の生活形態

#### 【調査報告】

- 森武磨ほか 戦後福島県葛尾村松島共栄開拓

# 飯田アカデミア2018第86講座

## 「学ぶ会」教科書づくりから見えてきたこと

3月16日(土)

## —歴史をともに学ぶこと、歴史を綴ること—

講師 不破 修さん(元東京都公立中学校教員)

第1講 13:30~15:00

「検定教科書という舟を編む」

会場 飯田市役所 C棟3階会議室  
(飯田市大久保町2534)

第2講 15:20~16:50

「「学ぶ会」教科書叙述と歴史を学ぶこと」

受講料 500円(資料代)

### 講義に当たっての思い(主な内容)

2015年、『ともに学ぶ人間の歴史』(学び舎刊)を検定済教科書として中学生の手に届けることができた。子どもと学ぶ歴史教科書の会(「学ぶ会」)の教科書づくりは、教室で生徒たちと向き合い、教材を整え、授業する授業者の仕事の延長として取り組んだ。検定教科書の編集から供給までの全過程に関わるなかで、教科書改善の可能性も見えてきた。

「学ぶ会」教科書は、「子どもの側に立つ」教科書として、「問いが生まれる」「学びを重ねる」「自らが歴史像をえがく」をコンセプトとした。子どもたちが自ら育ててほしい歴史を綴る力、歴史の中の現在を生きるものにとって歴史を学ぶことの意味を考えたい。「学ぶ会」教科書の叙述を、『みるよおまなぶ飯田・下伊那の歴史』と対照させながら、見直してみたい。

※1講義のみでもご参加いただけます。受講をご希望の方は歴史研究所までお申し込みください。当日参加も可能です。

## 地域史講座

### 「山村の木材利用と景観」

開催日: 3月9日(土)

時間: 14:00~15:45

報告者: 樋口貴彦(東洋大学助教/  
歴史研究所調査研究員)  
: 青柳由佳さん(名古屋女子大学准教授)

オブザーバー: 斎藤幸恵さん(東京大学大学院教授)

会場: 南信濃地域交流センター  
(南信濃公民館)

日本の山村における木材の使い方は、近代まで地域それぞれの特徴や産業と結びついて独自のあり方をみせてきました。しかし、それが引き継がれず、現在では消えつつあります。本講座では、遠山谷や木曾谷を事例に、昨年度まで同じタイトルで行ってきた講座の内容も振り返りながら、主として住宅や付属屋における木材の活用方法の特徴と今後の可能性について報告します。

※参加費や事前のお申し込みは必要ありません。お気軽にお越しください。

## 歴研ゼミ&ワークショップ

2月・3月の予定

号講生募集!!

スタッフとともに歴史を学んでみませんか。  
会場: 歴史研究所 研修室

近現代史ゼミ 担当: 田中雅孝(調査研究員)

2月9日・23日(第2・第4土曜日) 10:00~11:40  
3月9日 9:00~10:30

地域史(川路)ゼミ 担当: 羽田真也(研究員)

2月13日・27日/3月13日・27日(第2・第4水曜日) 18:30~20:40  
会場: 川路公民館(毎回)

満洲移民研究ゼミ 担当: 本島和人(調査研究員)  
: 齊藤俊江(調査研究員)

第89回 2月2日/第90回 3月2日(第1土曜日) 10:00~11:40

思想史ワークショップ 市民の皆さんが自主的に学び合う場

2月6日・20日/3月6日・20日(第1・第3水曜日) 19:00~20:40

### お知らせ

「自分史ワークショップ」は、2月と3月お休みさせていただきます。

ゼミ・ワークショップの詳細・お申し込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL: 0265-53-4670

開所時間: 午前9時~午後5時

休所日: 日曜日・月曜日・祝日・12月29日~1月3日

## 定例研究会

### 「近代初期の地籍図を読む 一日伊における史料比較」

開催日: 3月30日(土)

時間: 14:00~16:00

報告者: 福村 任生(歴史研究所 研究員)

会場: 歴史研究所 研修室

※定例研究会は公開で行っています。どなたでもご参加いただけます。